

受賞者体験レポート～ノアンフェスティバルショパン 2025年7月編～

今回、思いがけず「ノアンパスポート賞」を頂戴したことでの「ノアンフェスティバル」に参加させていただきました。渡仏するまでは、"この貴重な経験で多くのことを勉強してこよう！" と肩に力が入っていましたが、帰国して今思うことは、"あ～、楽しかった！行ってよかった…" という気持ちです。

午前中はアンリ先生のレッスンによるマスタークラスを聴講、午後は講座やイベント、そして夜はコンサート…と、盛沢山です。マスタークラスを聴講される方は、音楽を専門に勉強されていらっしゃる方々ばかりでなく、音楽が大好き、ノアンフェスティバルが大好きという方も多く、アンリ先生はそういう方々に向けても楽曲のことをわかりやすく説明されていらっしゃるようでした。私は残念ながらフランス語が分からず細かいところまではわかりませんでしたが、皆さんの反応からそのように感じられました。受講生の皆さんは、"ショパン時代のプレイヤー" と "モダンのプレイヤー" を引き比べながら、ショパンが何をどのように楽譜に書き込んでいるのか…ペダルはどのように書いてあるのか…など、アンリ先生の熱心なご指導でショパンの音色を追究します。

週末の午後には、「音楽と文学の即興劇」という興味深い催し物がありました。ジョルジュ・サンドとドラクロワに扮した俳優さんが迫力ある熱演で朗読します。そのバックでは、サンドの館にあるピアノで受講生やアンリ先生がショパンの曲を演奏するというものでした。さわさわと木の葉が揺れる音が演出を盛り上げます（途中で雨にも降られましたが…）。

日曜日の夜には、「ナイトウォーク」がありました。ジョルジュ・サンドのお庭がライトアップされ、ベリー地方の音楽団が "バグパイプ" と "ヴィエール" というこの地方の楽器による演奏をしながら歩くのに続いて私たちもお庭を歩いて周ります。メロディーを口ずさむ方もおられました。

そして時折、あの朗読劇の俳優さんたちがまたもや「親愛なる…」と朗読します。

フランス語がわからず残念ではあります、聞いている皆さんのが笑い声もありましたので、何やら皮肉でも言っているのか…。

そして羊小屋のコンサートホールには "ベヒシュタイン" が置かれていて、毎夜著名な演奏家たちのリサイタルが開催されました。その素晴らしい演奏に毎晩感動いたしました。良いお席を取ってくださいり感謝申し上げます。

あっという間にフェスティバル最終日、受講生の皆さんの見事な修了演奏会では、惜しみない拍手が送られました。

最終の夜は、アンリ先生や受講生をはじめたくさんの方とのパーティーがありました。フランス料理のフルコースに皆さんとの団らんで楽しんだあと、受講生の皆さんの演奏があり、最後はやはりアンリ先生のショパン。それはそれは素敵で、まるでシャンソンを歌っているかのようなフレーズ…。今もその音が鳴っています。

小麦畑が広がるのどかな風景にさわやかな気候、羊や馬などが草を食べるさまは自然と私の気持ちをリラックスさせてくれました。今回ノアンパスポート賞で一緒にの中嶋さんと野口さんとは昔から知り合いだったかのように仲良くなり、マルシェで買い物をしたりカフェでランチなどとても楽しかったです。フェスティバルのスタッフの皆さんにも大変よくしていただきました。会場から遠いホテルに宿泊していた私たちを毎日無料で送迎してくださったピエールさん、とても責任感が強いけれど涙もろくて優しいオーレリーさん、日本が大好きで居合道も勉強されているという人懐っこいミカエルさん、その他にも多くのスタッフの方々、そして、日本でたくさんお世話になりましたベヒシュタイン・ジャパンの白川さん、本当にありがとうございました。

